

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 東京都立墨東特別支援学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）

(2) 事務局の構成

主幹教諭（教務主任）＝事務局長、経営企画室長、主幹教諭（肢体不自由教育部門小学部）、主幹教諭（肢体不自由教育部門中学部）、主幹教諭（肢体不自由教育部門高等部） 計5名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長3名、経営企画室長、主幹教諭（教務担当）、主幹教諭（生活指導担当） 計7名

(4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）

学識経験者（1名）、小学校長、就労継続支援施設長、肢体不自由児者父母の会役員、特定非営利活動法人園長、国立がん研究センター中央病院地域医療連携部相談支援室癌専門相談員、江東区猿江二丁目町会長、江東区教育委員会、墨田区教育委員会、千代田区教育委員会、都立墨東特別支援学校 PTA 会長 計11名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和6年7月5日（金）内部委員7名、外部委員10名

- ・協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
- ・学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
- ・校内授業見学及び意見交換

第2回 令和6年11月26日（火）内部委員7名、外部委員10名

- ・学校評価アンケート中間報告
- ・校内授業見学及び協議委員からの教育活動に対する意見交換

第3回 令和7年1月27日（月）内部委員6名、外部委員9名

- ・これまでの教育活動に関する報告
- ・学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
- ・次年度に向けた提言の確認

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和6年7月5日（金）内部委員4名、外部委員3名

- ・学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
- ・今年度の学校評価の実施に向けた検討
- ・アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理
- ・報告書（案）及び提言（案）の提案及び確認

第2回 令和7年1月27日（月）内部委員4名、外部委員3名

- ・提言内容の確認及び評価委員長による全校連絡会での提言報告

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校運営の意気込み」「指導の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- ・令和6年10月16日（水）から11月6日（水）まで
- ・児童・生徒、保護者、学校スタッフ全員、放課後等デイサービス、病院スタッフ
- ・オンラインによるアンケート（Microsoft Forms・二次元コード併用）

(3) 主な評価項目

令和6年度学校経営計画の最重点目標に基づく設問17項目、「学校の魅力の創出」「指導の充実」「安全な学校生活」「児童・生徒の健康」「業務改善」の5分野での評価を実施した。また、各項目に関する自由意見を設定した。（平成30年度以降は「ライフ・ワーク・バランスの推進」に関する評価項目を設定）

(4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

今回のアンケートは、保護者回答率は、80%であった。5段階評価のうち、評価の平均がいずれの項目も3以上であり、保護者の満足度は高いと言える。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

○授業の充実

自立活動を主とする教育課程では、今年度から東京都の平均の2倍あった自立活動の授業時数を減らし、教科別の指導を増やした。今後は授業内容の充実が求められており、特別支援学校学習指導要領解説の中で示されている各教科の目標・内容の一覧を踏まえ、子供たちの発達や学習の習得状況を把握し、教科指導を充実させていく。

また自立活動の充実も求められている。これは学校生活全般で自立活動の視点が必要不可欠であることを今一度再認識し、学習習得状況把握表などを活用して自立活動の目標設定から授業の実施に至るまでの流れも校内で整理すること、姿勢づくりや介助方法の研修の実施についても検討していく。

○学校安全の充実

学校評価において学校の安全や人権意識についての懸念が保護者から意見として寄せられている。児童・生徒が安全・安心な学校生活を送れるよう医療的ケアのあるなしに関わらず、全児童・生徒に関する医療面・健康面の配慮事項の引継ぎや校内の情報共有策の充実、緊急時の連絡や対応方法の充実及び保護者との共有について、全校をあげて取り組む必要がある。また、いじめや体罰などについても教職員の人権意識をより高めていく必要がある。

○進路指導の充実

学校評価では進路指導について多くの意見が寄せられた。多様な障害のある児童・生徒が在籍しています。医療的ケアの必要な児童・生徒の進路など進路指導上の課題を整理することが必要である。進路情報を提供したり見学会を実施したりするなどして、一人一人の状況に応じた進路と進路指導について教職員と保護者が理解する機会を作っていく。

○働き方改革の推進

職場環境の整備は進んでいるが、学校評価においては業務の整理・効率化が必要な状況であることがうかがえる。既存の業務の整理・統合、書類の簡略化など、特にICTを活用した業務の効率化を一層進めていく必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- 全校読書活動、笑顔と学びの体験プロジェクト、アートギャラリー等での学校一体感の醸成
- 学校だより及び授業参観ガイドの充実、校内の環境整備の促進
- 医療的ケアに関する情報発信及び付き添い期間の短縮化の促進
- 第二次性徴期の生徒対象の「思春期の心と体」の授業の実施

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- 校内事故が起きないような対応策及び緊急時対応研修の充実
- 医療的ケアの充実及び保護者の負担軽減
- 進路指導に関する保護者への情報提供及び教職員への研修機会が少ない。
- 保護者アンケートの設問に回答しにくさがある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

- ・ 教育課程の見直しと授業の充実
- ・ 学校安全の充実及び教職員の人権意識の向上
- ・ 安全な医療的ケアの実施
- ・ 教職員の働き方改革を推進するための業務の整理

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 11人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
11	0	0	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議1回

* 評価委員長、評価委員1名、PTA会長の3名が参加した。評価委員長より全校教職員への提言が行われた。また、評価委員とPTA会長から今年度の教育活動等についての評価も行われた。

【成果】

直接、委員から学校の今年度の成果と課題及び改善策についての提言いただき、校内の共通理解を図り、教職員の学校経営計画実現に向けた取組についての一層の意識改善につながった。

8 その他

今後も協議委員の方の意見や助言、学校評価アンケートを参考に、学校運営・経営に反映させていく。